

## 本年度（平成31年度）の学校評価

本年度の 重点目標	「生き延びる力」を育成するための「学び続ける集団」の形成 ・キャリア教育の一層の充実 ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・望ましい学習習慣、生活習慣の確立 ・帰属意識と自己有用感の涵養 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
防災・減災 P T A活動 (総務部)	防災・減災に対する意識向上	防災・減災に関する実践的活動とともに、望ましい防災・減災の方法を考えさせる。	・あらゆる災害の状況を想定して、自分の命を守ろうとする意識を育成する。 ・非常事態において、要救助者を援助することにより、減災に積極的に取り組む意識を育てる。
	P T Aとの連携強化	学校行事を始めとする諸活動に対して、積極的な活動を推進する。	・学校が家庭と連携し、P T Aの積極的な活動により、生徒の育成に寄与できるように配慮する。
学習指導 (教務部)	基礎学力の定着と家庭学習習慣の確立	授業の目標を明示し、わかりやすい授業づくりに努める。	・普通科目と商業科目のバランスに配慮する。 ・生徒の学力に応じて適切に指導する。特に学力の伴わない生徒に配慮する。 ・個々の授業を更に充実させ、基礎学力定着に繋げる。
		単元ごとに小テストを行い、主体的に取り組める授業を展開する。	・各学年と協力し、意識向上に努める。 ・予習復習と一体化した授業を展開する。 ・課題や小テストを頻繁に取り入れ、家庭学習が前提となる授業づくりをする。
生徒指導 (生徒指導部)	校則を遵守、帰属意識の確立	集会等で生徒に本校の一員である自覚を持たせ、問題行動を未然に防ぐ	・帰属意識を高め、集団の一員として校則を守り協力し合い良い学校となるように自ら考え行動に移せる生徒を育てる。
	自転車の交通事故防止	新入生に具体的な内容の自転車交通安全講習会を開くなど、交通事故予防指導を徹底する。	・安全教育を推進し、交通事故に遭わないように予防運転を心がけるよう指導を徹底する。 ・歩道は歩行者優先など、運転の際のマナーを理解し、周囲への思いやり運転のできる生徒を育てる。
	いじめの未然防止と早期発見	全校集会等で、いじめ問題を主体的に考える機会を設ける。	・いじめ問題について主体的に考え、自分自身に関わる問題と捉え、より良い人間関係が築ける生徒づくりをする。
いじめを撲滅する。		・悩む生徒がいないように、いじめの早期発見・早期対応に努める。	
生徒会活動 (生徒会部)	主体的かつ協働的に取り組む事のできる生徒会行事の実施	協働的に取り組む事のできる行事の計画	・教師指導に傾向しすぎず、生徒会執行部と各クラス代議員の意見を取り入れた各行事の計画を立案する。 ・各クラスで取り組む際にも、協働的な学びの場を提供する。
		生徒の主体性を伸ばす行事の実施	・行事の計画において生徒に「感じさせ」「学ばせる」事は何なのかを明確する。 ・多角的な意見を集約し前年度の実施内容に左右されすぎないよう心掛ける。

教育相談 (教育相談部)	教職員の連携と スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的活用と外部機関との連携	関係部署との連携及び支援体制を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を抱える生徒の早期発見・情報収集とその支援のあり方を検討する。</li> <li>生徒の情報を適切に共有し、他の関係部署やスクールカウンセラー、さらに必要に応じてスクールソーシャルワーカーや医療機関などと連携して支援にあたる。</li> </ul>
		スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部の専門機関を活用した教員研修(ケーススタディを含む)の機会を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育の研修の機会を設ける。</li> <li>学校教育全般において、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部の専門家・機関などによる支援の充実を図る。</li> </ul>
保健・清掃指導 (保健厚生部)	健康的な生徒の育成と快適な環境づくり	学校全体で相談活動がスムーズに行える体制を作る。(校内の他分掌との連携だけでなく、SCやSSWと連携し問題解決にあたる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>他分掌、他職員との情報交換の機会を増やし、情報の共有化を図る。</li> <li>部会と教育相談小委員会での情報交換を行い、生徒の抱える問題等の早期発見に努める。</li> </ul>
		けが予防に取組み、けがの発生を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症の予防及び対処法、けがの予防について講習を実施する。</li> <li>職員に、スポーツ振興センターの利用状況について、情報提供を行う。</li> <li>1年生を対象に、心肺蘇生講習会を実施する。</li> </ul>
		環境美化活動の充実および活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>整美委員による点検活動をとおり、清掃活動の充実を図る。</li> <li>環境整備強化週間を設け、普段できない箇所の清掃を徹底して行う。</li> <li>部活動においても清掃活動を推し進める。</li> </ul>
進路指導 (進路指導部)	適切な進路情報の提供	学年に応じた進路情報の提供を行い、生徒・保護者の期待に応える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の個性・適正の把握に努め、進路情報を的確に行う。</li> <li>学年に応じた面談を行い、進路に対する意識付けや進路の目標設定をさせる。</li> </ul>
	キャリア教育を推進させる 適切な進路情報の提供	インターンシップの積極的な参加を推し進める。 SSTや企業ガイダンスの積極的な参加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>早い段階から進路目標を立てさせ、学校生活を充実させる。</li> <li>各教科と連携し、自ら進んで継続した学びができる体制を構築する。</li> </ul>
図書館活動 (図書館部)	生徒の図書館利用を促進し、読書の習慣を持たせる。	図書館の利用を促進するため、生徒への働きかけを工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒図書委員を通じて意見を集約し、高校生が興味を持てるような本を選定する。</li> <li>館内の展示方法等を工夫し、生徒が図書館を利用したいと思えるような環境を作る。</li> <li>図書館だより等による広報活動を更に推し進め、本に親しんでもらえるようにする。</li> <li>各教科に図書館の利用を働きかける。</li> </ul>
情報管理・情報発信 (教育情報部)	個人情報の管理	個人情報に関するコンプライアンスを高めるため、個別のセキュリティ状況の確認を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛知県情報セキュリティポリシーに基づき、教職員に暗号化・パスワード設定を徹底する。</li> <li>セキュリティ意識を高める働きかけをすると共に、個別に先生方のセキュリティ状況を確認する。</li> </ul>
		ホームページを使って常に学校の最新情報を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の魅力発信に心掛ける。</li> <li>リアルタイムで更新できるように努める。</li> </ul>

	校務支援システムを利用した指導要録の作成	校務支援システムの整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムを利用した指導要録作成機能における、校内の業務プロセスの確立。</li> <li>調査書作成機能の導入。</li> </ul>
商業教育 (商業科)	A I、I o Tと共存しながら地域社会のために自ら課題を発見し、課題解決のために主体的かつ協働的に取り組むことができる人材の育成	教育課程研究指定校の取組である科目「課題研究」(3年生)の指導体制を確立するため、各講座における年間学習計画の見直しとともに、生徒の課題設定から解決、価値創造までの学習教材の研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>A I、I o Tと共存するための具体的な人材像を確立する。</li> <li>指導と評価の一体化を目指した授業実践に取り組む。</li> <li>教員自身がアクティブ・ラーニングにおける指導技術(ファシリテーション)を身に付ける。</li> </ul>
総合ビジネス科	様々なビジネスシーンに対応できるビジネスリーダーの育成	基本的なビジネススキルの習得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論だけではなく、実践を繰り返すことでビジネスマナーを身に付けさせる。</li> <li>発言する機会を多く設け、さらに相手の話を引き出す的確な発言を促せるような話しやすい環境作りに努める。</li> <li>ビジネスに関する視点で問題を見つけ、解決に向けた助言を行う。</li> </ul>
		主体的な学びの授業展開の中で、チャレンジ精神を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実可能な目標を設定し、周囲からのサポートを得られるよう、協働して取組ませる。</li> <li>各授業で得た知識を、実践的・体験的な学習活動を通して率先して行動にできるように働きかける。</li> </ul>
情報処理科	最新技術と協調し業務を遂行する人材育成	情報処理に関する専門性を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師の活用など高度資格の取得体制を整える。</li> <li>習熟度別授業を展開し、きめ細かな学習指導を行い知識の定着を図る。</li> </ul>
		情報・I T・データスキルを磨く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラルに則り適切に情報を収集、活用、発信する力を養う。</li> <li>ケーススタディ等を取り入れ、集めたデータの持つ意味を分析し、仮説を立ててデータを検証させる。</li> </ul>
国際ビジネス科	グローバルビジネスで活躍できる人材育成	外国の文化や習慣を理解し、地球規模で経済を捉える力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化を理解し論理的思考力を持たせるための授業改善に努める。</li> </ul>
		主体的に地域社会や地域産業と関わることにより、コミュニケーション能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップを活用し、事前に自己分析と仕事研究を行うことにより明確な目的を持たせ、他者と積極的にかかわることを意識した指導を重ねる。</li> <li>進路指導部との連携体制を整える。</li> </ul>
		英語を活用し、実務で活かすことのできる能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語科教員との長期的な連携体制を整える。</li> <li>海外派遣プログラムの積極的な参加を促し、学んだ知識を活かす機会を設ける。</li> </ul>
経理科	簿記会計の役割を理解しその能力を活用できる人材の育成	実務に即した会計分野の知識と技術を習得し、社会的役割を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>検定重視の指導だけでなく、実務での役割を理解する授業を展開していく。</li> <li>簿記会計の役割を教員自身が勉強するための研修を会計部会にて実施する。</li> </ul>

	簿記会計の役割を理解しその能力を活用できる人材の育成	自ら課題を見だし、知識を基に課題に対して創造的に解決する能力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>科目「課題研究」において自己の現状を分析し目的や課題を明らかにするための指導を行う。</li> <li>科目「課題研究」において課題の解決に向けたプロセスを明らかにするための指導を行う。</li> </ul>
第1学年 (1年学年会)	自主的・主体的に行動する態度の育成	HR役員や係の活動に責任を持たせ、積極的に従事させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>HR役員や各係の役割・すべきことを明確にして生徒に示し、自主的に行動しやすい環境を整える。</li> <li>連絡事項の指示系統を整理し、担任から生徒への伝達の割合を減らすとともに、生徒から生徒への伝達の割合を増やす。</li> </ul>
		生徒に様々な仕事を任せ、クラス運営に参加する機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自主的」と「主体的」の解釈と、生徒の活動へのサポート体制を学年で確実に共有する。</li> <li>生徒が任された仕事に主体的に取り組めるよう、生徒自身のアイデアを引き出し、クラス運営へ活かす。</li> </ul>
第2学年 (2年学年会)	社会人基礎力の育成	言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオをさらに充実させ、商業的な視点で考察をさせる。</li> <li>表現力や批判的思考力、協調性を身につけられるよう働きかける。</li> <li>知識を活用する機会や場を企画する。</li> </ul>
		他者を尊重する豊かな人間力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動の目的達成だけでなく、社会に触れる機会にさせる。</li> <li>集団で行動することを通して、周囲に対する思いやりを持たせる。</li> </ul>
第3学年 (3年学年会)	進路希望の実現と協働の実践	個人面談や保護者会を通じて生徒の進路希望を把握し、適切な情報提供および進路指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の能力や適性を把握し、学年会や進路指導部との情報交換を密にして、多様な進路希望に対し適切な指導を心がける。</li> <li>補習や模試等への取り組みに対して、意欲ある生徒をより伸ばす環境を整える。</li> </ul>
		広く学び知見を開く態度を育て、地域や国際社会へ貢献できる姿勢を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる知識や体験の交流をすすめ、他者理解へのより一層の視野の拡大を図る。</li> <li>既成の価値観にとらわれず、新しい世界を切り開いて挑戦し、社会貢献できる態度について追究する。</li> </ul>
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導における授業改善の工夫について</li> <li>基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚について</li> <li>学習環境、学校施設等における整備状況について</li> </ul>	